第７章　梁上移動時の二丁掛けの方法・移動時の注意点

Q 梁上移動時の二丁掛けの方法は？

⇒　ハーネスでは、常に二丁掛け状態とする。

１．特に、我が国では法的義務はないが、欧米では作業時には常に二丁掛け状態としているのが常識となっている。従って、梁などの移動時においても、常にフックを２点かけている状態である。

本書では、欧米のように「ハーネスは、常に二丁掛け状態」を推奨するものである。

２．「ハーネスは、常に二丁掛け状態」の方法

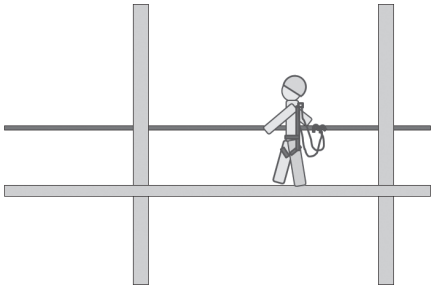
①ハーネスで梁上等を移動の場合は、親綱にフックを同時に２本掛ける（図右上）。

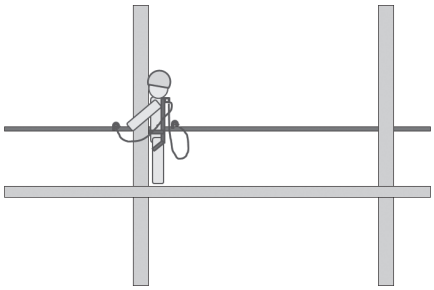
②ハーネスの２本のフックを同時に親綱に掛け、梁上を動する。

③柱等障害物があった場合は、一のフックを外し柱の反対側に掛ける（図右中：この時、２本のフックが柱等を挟んで同時に掛かっている状態）。

④二のフックを親綱から外し、一のフックの横の親綱に掛ける（図右下）。

⑤２本のフックを親綱に同時に掛けた状態で梁上を移動する。

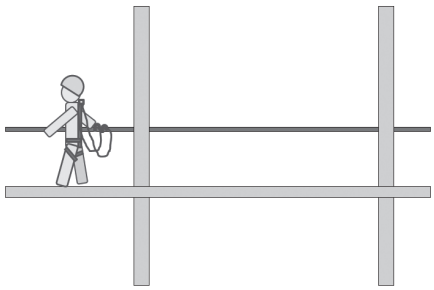




３．常に二丁掛けの利点と欠点

(1)利点：梁等を迂回する際にフックの掛け忘れによる墜落災害が多いが、常に二丁掛けは、掛け忘れを防止できる利点がある。

(2)欠点：常に二丁掛けであると墜落した場合にショクアブソーバが機能しない可能性があり、使用者は想定以上の衝撃荷重を受ける可能性があるという欠点がある。



(3)現場で梁を迂回する実地訓練を行うと、補助フックを掛ける前に主フックを外す、つまり無フック状態とする者が１割は存在することから、本書はよりよい安全対策として常に二丁掛けを推奨するものである。